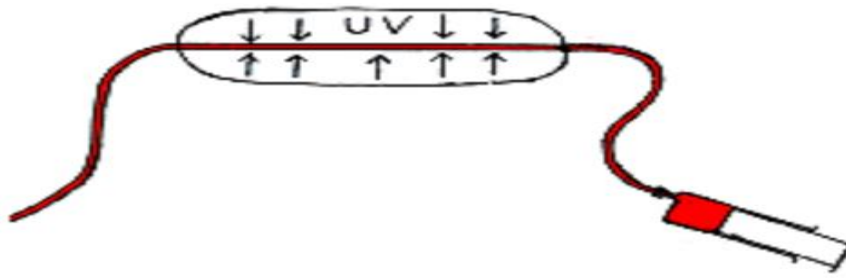


UV療法による感染症治癒のメカニズム



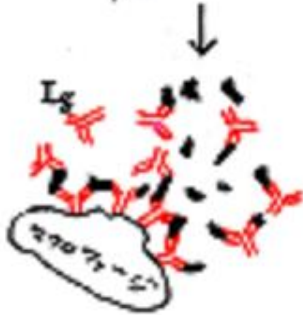
細菌の場合



UVは殺菌作用があり、UV管を通過した細菌やウイルスを殺菌するが



病原体の細胞膜が破壊されて、ダメージを受けたDNA、リボソームなどが血液中にでてくると



それが抗原となって免疫反応を誘導し、抗体が増産される。

細菌(とくに化膿菌)の場合は、体液性免疫で、ウイルスや結核菌の場合は、細胞性免疫によって細菌、ウイルスが殺菌される。

UVによって酸素化された環境も、細菌やウイルスを住みにくくさせる。